

防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

令和6年度病害虫発生予察防除情報第12号

果樹共通 カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ） の防除対策について

果樹カメムシ類については8月下旬以降、ヒノキ樹上で生育した新世代成虫がヒノキから離脱し、果樹園へ飛来、果実へ加害するおそれがある時期となります。

新世代成虫はヒノキきゅう果が餌として好適な期間はヒノキ上にとどまりますが、吸汁によってきゅう果の劣化が進み、餌として不適になるとヒノキから離脱し果樹園へ飛来します。

現在のヒノキ樹上の寄生虫数は平年より少ない状況ですが、それに対して口針鞘数は平年並の状況です。このことから、新世代成虫のヒノキからの離脱は、一部ではすでに始まっていると推定されます。

また、巡回調査、予察灯、フェロモントラップによる誘殺状況からも、一部地域ではすでに離脱が始まっていることが示唆されますので、下記の点に注意して防除指導をお願いします。

記

1. 発生状況

- (1) 8月下旬に実施したヒノキきゅう果のビーティング調査の結果、1枝当たりの寄生虫数は0.8頭（平年 2.2頭）と平年より少ない（表）。
- (2) 8月下旬に実施したヒノキきゅう果の口針鞘数調査の結果、1果当たりの平均口針鞘数は13.0本（平年 11.7本）と平年並である（表）。
- (3) 8月後期の巡回調査（36筆）の結果、かんきつでの発生圃場率は5.6%（平年 0.3%）であった。
- (4) フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、平年並であるが、やや増加傾向にある（図1）。
- (5) 予察灯（諫早市、南島原市、五島市）の誘殺量は、概ね平年並で推移しているが、一部地域で増加している（図2）。

2. 防除上注意すべき事項

- (1) 口針鞘数は平年並の状況であるが、巡回調査などの状況から一部ではすでにヒノキからの離脱が始まっていると推定され、口針鞘数が多い地域ほどそのおそれが高い（表）。
- (2) ヒノキが台風接近などによる強風雨にさらされた場合、ヒノキより振り落とされた成虫が強制的に離脱させられた形となり、口針鞘数に関わらず果樹園に飛来するおそれがある。
- (3) 山林に近い園地や毎年発生を認める園地などでは、こまめな見回りを徹底し、カメムシ類の飛来が認められた場合には早急に防除を行う。
- (4) 飛来時期や飛来量は園地によって異なる場合があるので注意する。
- (5) ハウス栽培では、開口部を防虫網（4mm目以下）で被覆し、侵入を防ぐ。既に被覆済みのハウスでは、防虫網の破損がないか点検・補修する。
- (6) カメムシ類の活動は日没前後から活発になるため、薬剤散布は夕方あるいは早朝に行うのが効果的である。
- (7) 合成ピレスロイド系薬剤を連用するとミカンハダニが急増することがあるので注意する。
- (8) 特に収穫時期の近い品目は、薬剤散布時期に注意し使用基準を遵守する。また、周辺環境を十

分に確認し、ミツバチを含め周辺動植物等への飛散等の影響がないよう十分注意する。

表 ヒノキ樹（きゅう果着生枝）における果樹カメムシ類の寄生および口針鞘数の状況
（令和6年8月下旬）

調査地点	チャバネ・ツヤアオ合計（枝当たり頭数）					口針鞘数 （本／果）
	成虫	老齡	中齡	若齡	計	
諫早市多良見町東園	0.5	0	0.1	0	0.6	12.0
〃 佐瀬	1.2	0	0.3	0.1	1.6	14.0
長与町岡	0.2	0	0.4	0	0.6	8.0
時津町西時津	0.2	0	0	0	0.2	4.2
西海市西彼町小迎	0.1	0	0	0	0.1	12.1
西海市西海町木場	1.6	0	0	0	1.6	18.4
諫早市長田	1.4	0	0	0	1.4	15.2
大村市今村	1.1	0	0	0	1.1	11.2
東彼杵町赤木	0.1	0	0	0	0.1	15.3
雲仙市瑞穂町伊福	0.4	0	0	0	0.4	18.9
雲仙市国見町百花台	0.1	0	0.2	0	0.3	17.0
南島原市有家町新切	1.2	0	0	0	1.2	6.4
南島原市北有馬町田平名	1.4	0.1	0.1	0	1.7	13.6
佐世保市宮	0.1	0	0	0	0.1	15.7
佐世保市針尾	-	-	-	-	-	-
R6 平均	0.7	0.01	0.08	0.01	0.8	13.0
平 年 値	1.6	0.2	0.2	0.1	2.2	11.7
R6 構成比率(%)	87.1	1.3	10.2	0.9		

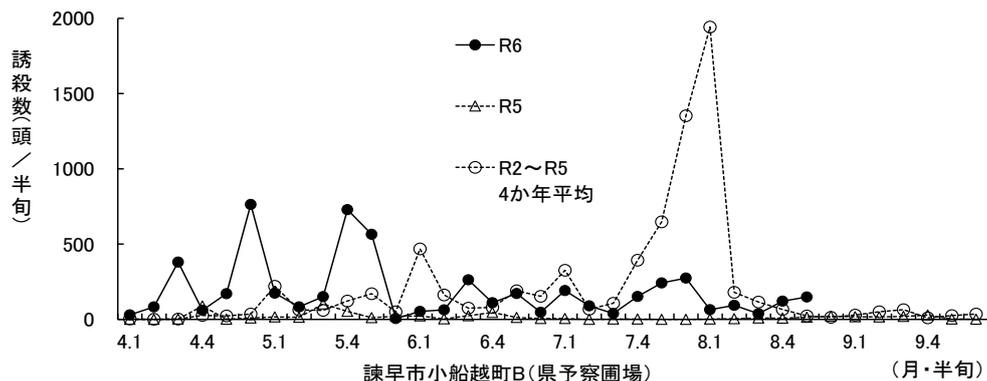
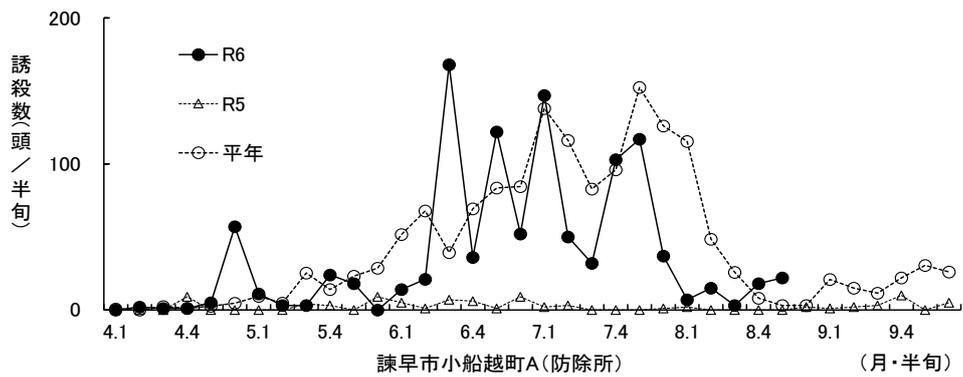
注1) きゅう果採集時期: 令和6年8月20,22日

注2) 寄生状況はビーティング調査により行った。

注3) 口針鞘数は、1地点当たりきゅう果30果を調査した。

注4) 口針鞘数の平年値は平成26年～令和5年の平均である。

注5) 口針鞘数が1果当たり25本を超えるとヒノキ毬果が餌として不適となりカメムシがヒノキ毬果より離脱する傾向。ただし、ヒノキ毬果における寄生虫数、口針鞘数は地形等により差が大きいため、各調査地点の結果が必ずしも当該地域全体の状況を示すものではない。



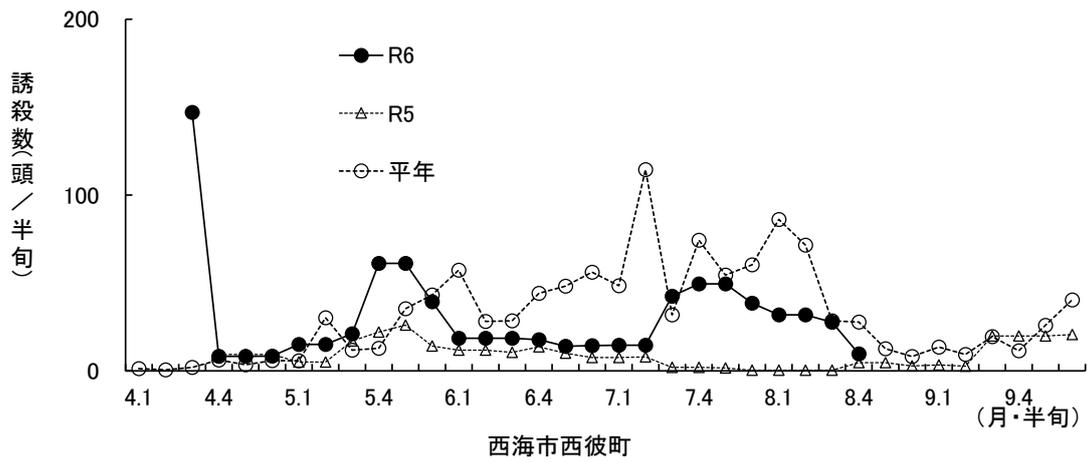


図1 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(フェロモントラップ)

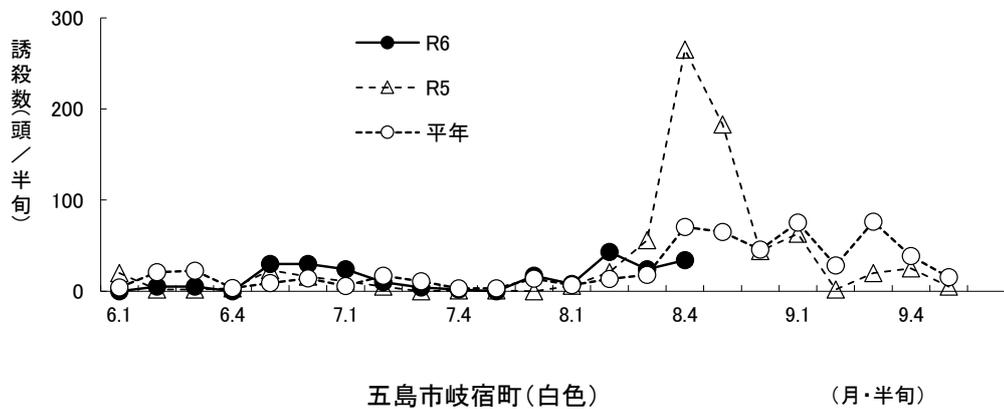
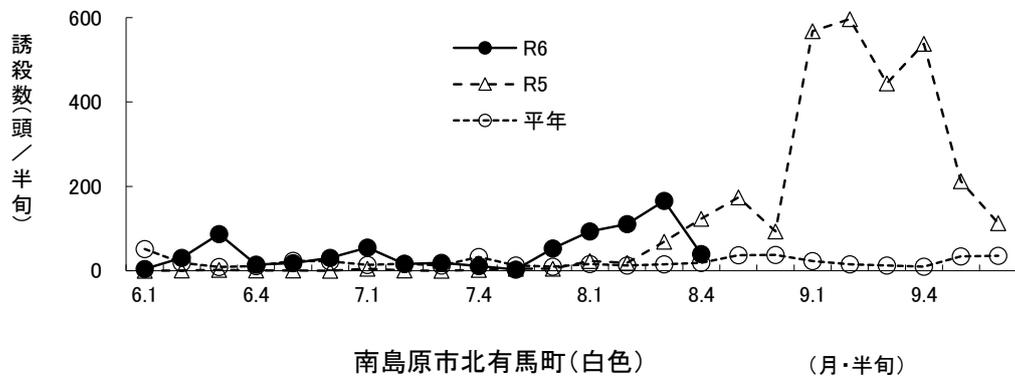
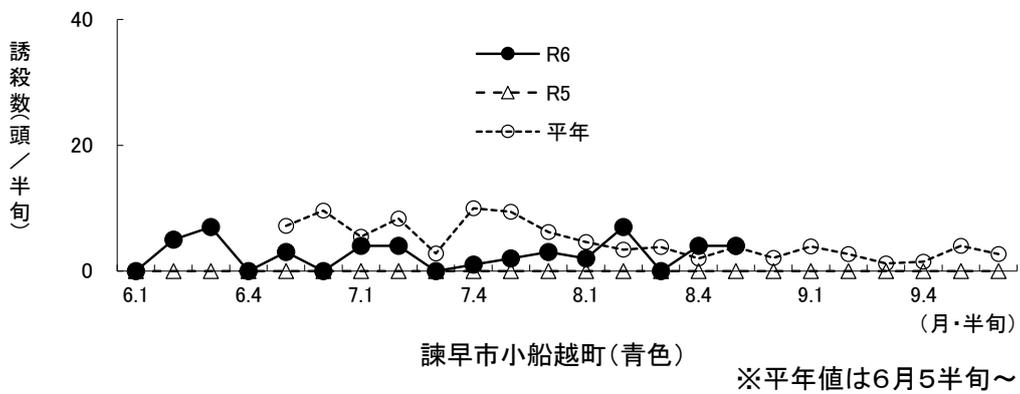


図2 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(予察灯; 白色、青色)

○6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病虫害発生予察室
(長崎県病虫害防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病虫害発生予察室
(長崎県病虫害防除所) TEL : 0957-26-0027

